

2021年度「学生による授業評価アンケート」結果報告

2021年度名古屋経済大学FD委員会

新型コロナウイルスの蔓延により2019年度までのマークシート式の授業評価ができなくなったため、2021年度は2020年度に行われたオンライン調査の方式を継続して実施し、同様な状況下における評価結果の経年比較として位置づけることとした。それは学生が履修している複数の科目に対して、それぞれ評価していた従来と異なり、下記のように修正したオンライン調査であった。

- 1) 回答率が大きく低下するのを回避するため、質問項目をできるだけ少なくした。
- 2) 所属している学部の授業全般に対する評価を求めた。

結果として、今年度の回答率は大きく下がり、20%前後にとどまった。学生に繰り返し促せなかったことは、反省材料の一つとなったが、下がり幅の大きさから、オンラインによる授業評価への学生の著しい意欲低下があると言わざるを得ない。次年度は可能な限り2019年度までの実施方式に戻していくことが望まれる。

なお、授業に対する全般的な評価の平均点は、全ての設問項目において前年度を上回っている。授業評価に参加した学生層の質のよさを反映していると推測される。

また、上記の調査とは別に、各専任教員が担当の授業を1つ選択し、その受講学生に対してアンケートするという教員別の授業評価を前・後期とも実施した。その実施結果と科目担当者による考察および改善に関する報告書は、学内ウェブサイトで掲載し、共有している。

【実施概要】

所属名	在籍者数	回答者数	回答率
経済学部	629	124	0.20
経営学部	645	144	0.22
法学部	648	108	0.17
人間生活科学部・教育保育学科	217	52	0.24
人間生活科学部・管理栄養学科	249	45	0.18
【全体】	2,388	473	0.20

【設問項目】

	設問項目
1	あなたは授業によく出席しましたか
2	あなたは予習・復習を含め授業に意欲的に取り組んだと思いますか
3	授業はシラバスに沿って行われたと思いますか
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか
5	授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか

【設問 2～7】

5 : 強くそう思う 4 : そう思う 3 : どちらともいえない 2 : そう思わない 1 : 全くそう思わない

【平均点】

設問	経済	経営	法	教育保育	管理栄養	大学全体
1	3.27	3.68	3.57	3.52	3.51	3.51
2	3.48	3.58	3.74	3.44	3.67	3.58
3	3.77	3.81	3.88	3.67	3.64	3.79
4	3.66	3.77	3.81	3.81	4.02	3.78
5	3.72	3.92	3.79	3.88	4.22	3.86
6	3.82	3.92	3.88	4.08	4.24	3.93
7	3.80	3.88	3.88	3.98	4.13	3.89

2021 年度後期 経済学部 授業評価アンケート報告書

1. 実施概要

(1) 経済学部全体の回答率

表 1

	在籍者数	回答者数	回答率(%)
2020 年	573	356	62
本年度	629	124	20

今回のアンケートは、従来のマークシートを用いたものではなく、前年度(2020)と同様、オンラインによって行われた(Google Forms を使用)。経済学部の回答率に関しては、前年度については、従来式で行われた前々年度のアンケート結果と比較すると、2.45 ポイント下がったのみであった。しかし、今回の経済学部の回答率は 20%で前年度よりも大幅に下がった。大幅低下の理由は不明であるが、授業中に出席者全員に回答をしてもらうのと、学生がメールで送られたアンケートに自発的に回答するのでは、結果に差が出てくるのはやむを得ないと思われる。今回の結果ではっきりとしたのは、オンラインでのアンケート実施の場合、回答率を上げるためには何らかの強制力を持った追加の方策を考える必要があるということである。

今回、回答数が少ないとはいえある程度学生の動向を見ることはできるが、すべての点に関して分析し推定するには、やや数が足りないと思われる。

(2) 学年別の回答率

表 2

学年	在籍者数	回答者数	回答率(%)
1 年	174	42	24
2 年	142	32	23
3 年	156	25	16
4 年	157	25	16

表 3

	回答者数	回答者数÷回答者合計(%)
留学生	24	19
スポーツ学生	13	10
それ以外	87	70
合計	124	100

学年別回答率については、3年と4年が他の学年より約10ポイント低い。4年生は3学部の場合、多くの学生が3年までに卒業単位を取得するため4年次にはアンケートに答える科目数・学生数が減少するためであろう。3年生の回答数が少ないのは、オンラインで回答することに特に強制力はないため1、2年生で回答してきたということで、3年次まで回答する必要性を特に感じなかった学生が多かったからかもしれない。表3は留学生、スポーツ学生、それ以外の学生の経済学部での回答率を示したものである。

2. 経済学部教員の集計結果

表 4

	設問項目	2019年	2020年	本年度	大学全体
1	あなたは授業によく出席しましたか	4.10	3.48	3.27	3.51
2	あなたは予習・復習を含め授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.80	3.46	3.48	3.58
3	授業はシラバスに沿って行われたと思いますか	4.10	3.71	3.77	3.79
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	3.80	3.55	3.66	3.78
5	授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	3.80	3.61	3.72	3.86
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか	4.00	3.68	3.82	3.93
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか	3.90	3.70	3.80	3.90
	平均	3.93	3.60	3.65	3.76

2020年度と本年度を比較すると、設問1（出席の度合い）のポイントが低下し、設問3～7はやや上昇しており、設問6（教員の熱意）が一番高く上昇している（0.14ポイント上昇）。そして、全体的に見ると0.05ポイントの上昇である。ただ、すべて対面授業であった2019年度と比較すると、本年度はまだポイントがかなり低いことがわかる。

本年度の経済学部の結果と大学全体の結果を比較すると、すべての設間で大学全体より低い値となっている。特に設問1の低下が目立った。全体的には、大学全体との差は大きいものではないものの、この点を考慮し学部でなんらかの対策を講じる必要があると思われる。

3. 学生視点からの集計結果

(1) 「全学部生/留学生/スポーツ学生」についての結果

表5

設問	全学部生		留学生のみ		スポーツ学生のみ	
	2020	本年度	2020	本年度	2020	本年度
1	3.48	3.27	3.65	4.08	3.71	3.38
2	3.46	3.48	3.73	3.88	3.83	3.77
3	3.71	3.77	3.88	4.08	3.92	3.77
4	3.55	3.66	3.75	4.04	3.79	3.69
5	3.61	3.72	3.82	4.08	3.63	3.77
6	3.68	3.82	3.90	4.25	3.71	4.23
7	3.70	3.80	3.76	4.04	3.71	4.00
平均	3.60	3.65	3.78	4.07	3.76	3.80

例年留学生のアンケート結果のポイントは高い傾向にあるが、オンラインが始まった2020年度にはかなり低下した。しかし、今年度のポイントはかなり上昇しており、留学生も日本語学校や本国の学校でオンラインでの授業に慣れてきたからであろうか。スポーツ学生も平均でわずかながら上昇している。

(2) 学年別の結果

表 6

設問	1年		2年		3年		4年	
	2020年	本年度	2020年	本年度	2020年	本年度	2020年	本年度
1	3.56	3.12	3.05	3.38	3.93	3.16	3.35	3.48
2	3.53	3.43	3.30	3.47	3.49	3.64	3.60	3.44
3	3.72	3.60	3.66	3.81	3.82	3.84	3.54	3.96
4	3.56	3.45	3.48	3.53	3.64	3.72	3.52	4.12
5	3.70	3.71	3.44	3.53	3.60	3.76	3.79	3.92
6	3.75	3.64	3.54	3.81	3.70	3.84	3.77	4.12
7	3.73	3.52	3.64	3.72	3.81	3.96	3.56	4.20
平均	3.65	3.50	3.44	3.61	3.71	3.70	3.59	3.89

ポイントの平均は2年生と4年生で前年度より上昇している（3年生についてはほぼ同じ）。2～4年生にとっては、オンライン授業については昨年経験していることなので戸惑いは少なかったからかもしれない。本年度の学年の中では、1年生のポイントが1番低い。1年生にとっては、大学でのオンライン授業については初めてであるため慣れないことが多かったからかもしれない。本年度の設問1（出席の度合い）については、1年生と3年生が目立って低い。

今年度ゼミや語学など少人数のクラスは対面授業で行われたものの、経済学部多くの授業はオンラインであった。オンライン授業実施も2年目を迎え、教職員、学生ともにそうした教育環境に慣れ、また対面授業についても感染対策をより改良した形にして行われ、本年度は前年度よりもよりスムーズに行われたのではないと思われる。そのためか、アンケートのポイントは前年度より少し上昇した。

オンライン授業のメリットも多くあるのは事実であるが、対面授業で人と触れ合い切磋琢磨したり、またその中で友人関係を構築したり、また教員に直接質問することができるなど、対面でしかできないことも多くある。その他、授業外でも「大学に来る」ということで得られる刺激、人間関係などもある。その点で、まだオンライン授業が多く実施された本年度は、すべて対面授業であった2019年度の結果には及ばなかったのだろう。

2021 年度後期 経営学部 授業評価アンケート報告書

経営学部 FD 委員会

1. 実施概要

所属名	在籍者数 (E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
経営学部	645	144	22%
【全体】	2,388	473	20%

全体の授業評価アンケート回答率が低い中で、経営学部学生の回答率は 22%で全体より少し上回っている。前年度の 61.8%に比べてかなり低くなっているが、全体として学生への促しがうまくいかなかったという要因がある一方、オンラインによる授業評価に対する学生の意欲低下もあったのではないかと考えられる。コロナ禍が長引き、オンラインによる受講と授業評価アンケートへの返答は技術的に慣れてきている反面、そうした非対面的な調査に対して関心が薄れてきていることなどが推察される。次年度は対面での実施が最善であると考えられる。やむを得なくオンライン実施となった際には、ゼミ時間の中で実施させるなど、より効果的な方策を講じる必要がある。

* 学年別回答率

所属名	在籍者数(E)	回答者数(F)	回答率(F÷E)
1 年	172	53	31%
2 年	163	39	24%
3 年	139	25	18%
4 年	171	27	16%

学年別の回答率を示してみると、1 年生は 31%、2 年生は 24%となっており、授業評価への参加度は 3 年生と 4 年生より少し高かった。3 年と 4 年は 20%を割る低い結果となっている。原因として、4 年は卒業年次で登録科目数自体が少ないことが考えられる。3 年次は在籍者数自体が少ないということに関連性があると思われる。

2. 経営学部平均ポイント

	設問項目	19年度	20年度	21年度	大学全体
1	あなたはこの授業によく出席しましたか	4.1	3.63	3.68	3.51
2	あなたは予習・復習を含めこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.8	3.48	3.58	3.58
3	授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか	4.2	3.63	3.81	3.79
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	4.0	3.53	3.77	3.78
5	授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	3.8	3.63	3.92	3.86
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか	4.0	3.64	3.92	3.93
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか	4.0	3.61	3.88	3.89

上記表の集計データはそれぞれの年度の後期のものである。経営学部の平均ポイントは、2020年度の結果に比べて、全ての設問項目において前年度より上昇している。とくに設問4（わかりやすさ）、設問5（新しいものの見方）、設問6（教員の熱意）、設問7（授業の進行速度）の上り幅は0.24～0.29の間となっており、今年度の授業評価に参加した学生の満足度が比較的高くなったことを表しているといえる。ただし、コロナ禍以前の2019年度に比べると、設問5の「新しいものの見方」以外は、どの項目も低くなっている。コロナ禍によるオンライン授業の負の影響が今年度も出ていると見ることができる。

また、経営学部の平均ポイントは、設問1、設問3、設問5の三項目が大学全体平均より上回っており、それ以外の項目も同等、もしくは近接しているとなっていることがわかる。

3. 学生視点からの結果分析

* 学年別結果（1～7の設問項目は2の表を参照）

	1年	2年	3年	4年	全学年
1	3.47	3.77	3.68	3.96	3.68
2	3.57	3.49	3.72	3.59	3.58
3	3.70	3.72	4.12	3.89	3.81
4	3.73	3.46	4.04	4.04	3.77
5	3.83	3.74	4.04	4.26	3.92
6	3.94	3.74	4.04	4	3.92
7	3.85	3.54	4.24	4.07	3.88

学年別の結果を見ると、全学年、または全ての項目の中で最も低かったのは1年生の「授業の出席度」（設問1）である。前年度後期でも3.39ポイントと一番低かったので、引き続き1年次生の授業参加を促していく必要がある。また、1,2,4年では、設問2の「予習・復習を含め、意欲的に取り組んだか」の項目が、その他の設問に比べて、共通して低い数値となっている。これは前年度後期でも類似した結果が見られる。コロナ禍以前の2019年度後期のデータ分析を振り返ってみても、同様なことが指摘されていることがわかる。対面授業にしても、オンライン授業にしても、学生の意欲を高めることは依然として課題であり、様々な工夫をする必要がある。

*** 属性別結果**（1～7の設問項目は2の表を参照）

	留学生のみ	留学生除く	スポーツ学生のみ	スポーツ学生除く	全学部生
1	3.94	3.54	4	3.66	3.68
2	3.72	3.5	3.88	3.56	3.58
3	3.94	3.74	4	3.8	3.81
4	4	3.64	4	3.76	3.77
5	4.08	3.84	3.88	3.93	3.92
6	4.22	3.75	4.12	3.9	3.92
7	4.06	3.77	4	3.86	3.88

全学部生平均に比べて、「留学生のみ」は全ての項目において高い数値を示している。前年度後期は設問1（授業の出席度）と設問4（わかりやすさ）の数値がそれぞれ3.62と3.59で低かったのに対して、今年度はこの2項目がそれぞれ0.3ポイント上がっている。しかし、2019年度後期を見ると、「留学生のみ」の結果は全ての項目において4.2以上であった。それに比べると今年度の結果は良いとは言えず、オンライン授業の限界を示していると思われる。

一方、留学生を除いた日本人学生の結果は、どの設問項目においても「留学生のみ」より低い。とくに設問1の「出席度」と設問2の「意欲」の数値が最も低くなっている。授業に対する日本人学生の興味関心を喚起することは大切であり、教育方法などにおいてより一層様々な方策を講じる必要があると思われる。

「留学生のみ」と同様、「スポーツ学生のみ」の結果も例年と同じ、日本人学生の中で捉

えると、高めの数値を示している。授業評価に参加した人数は8人であると少なかったためか、全ての項目において前年度後期より高くなっている。比較的低かった数値は、設問2の「意欲」と設問5の「新しいものの見方」であるが、日本人学生全体のなかでみると低い数値ではないので、スポーツ推薦学生にとって理解しやすい授業になったと考えられる。

以上

2021 年度後期 法学部授業評価アンケート結果報告書

1 実施概要

所属名	在籍者数 (E)	回収者数 (F)	回答率 (F÷E)
法学部	648	108	16.67
【全体】	2,388	473	19.81

今回のアンケートは、前年度に続き、新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインで行われた。2019年度以前と異なり、全学生を対象とし、1学生1回答を呼びかけた。これまでも、法学部専任教員担当科目におけるアンケート回答率が低いことが指摘されていたが、今回のアンケートでも、法学部生の回答率は低くなっている。今後も回答率のより一層の向上を目指して、呼びかけを行いたい。

2 前年度との比較

設問項目	前年度	本年度
1 あなたは授業によく出席しましたか	3.4	3.6
2 あなたは予習・復習を含め、授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.3	3.7
3 授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか	3.5	3.9
4 授業内容はわかりやすかったと思いますか	3.4	3.8
5 授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	3.5	3.8
6 教員の教え方には、熱意があったと思いますか	3.6	3.9
7 授業の速さや進め方は、適切だったと思いますか	3.5	3.9

前年度とあるのは、2020年度後期の法学部生のデータである。回答率が大きく低下しているため比較は難しいが、本年度と同種のデータと見なして、比較すると、全ての項目で、前年度の数値を上回っている。最も数値が上がったのは設問2, 3, 4と7で、0.4ポイントの上昇、最も上昇の程度が低いのは設問1で、0.2ポイントの上昇であった。前年度は大きな低下が見られたところであり、本年度は、2019年度以前の数値には戻らないものの、面接授業の復活などにより回復傾向にあるものといえよう。

3 法学部所属教員の結果（他学部科目及び他学部履修生を含む）

今年度は、前年度と同様、法学部所属教員のデータはない。

4 法学部生学年別結果（全学生）

設問	内容	全学年平均	1年	2年	3年	4年
1	あなたは授業によく出席しましたか	3.6	3.4	3.6	3.6	3.9
2	あなたは予習・復習を含め、授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.7	3.9	3.7	3.6	4.1
3	授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか	3.9	3.8	3.9	3.7	4.4
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	3.8	4.0	3.6	3.6	4.4
5	授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	3.8	3.9	3.7	3.6	4.3
6	教員の教え方には、熱意があったと思いますか	3.9	4.0	3.9	3.6	4.3
7	授業の速さや進め方は、適切だったと思いますか	3.9	3.9	3.8	3.6	4.6

(同スポーツ学生)

設問	内容	全学年平均	1年	2年	3年	4年
1	あなたは授業によく出席しましたか	2.9	3.0	2.9	2.6	4.0
2	あなたは予習・復習を含め、授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.4	3.6	3.0	3.6	4.5
3	授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか	3.5	3.4	3.6	3.3	4.5
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	3.7	3.8	3.4	3.6	4.5
5	授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	3.7	4.0	3.6	3.6	4.5
6	教員の教え方には、熱意があったと思いますか	3.8	4.0	3.9	3.4	4.5
7	授業の速さや進め方は、適切だったと思いますか	3.8	3.8	3.7	3.7	4.5

(同留学生)

設問	内容	全学年平均	1年	2年	3年	4年
1	あなたは授業によく出席しましたか	2.8	3.5	なし	2.0	なし
2	あなたは予習・復習を含め、授業に意欲的に取り組んだと思いますか	4.3	4.0	なし	4.5	なし
3	授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか	3.0	3.0	なし	3.0	なし
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	2.8	3.0	なし	2.5	なし
5	授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	2.5	3.0	なし	2.0	なし
6	教員の教え方には、熱意があったと思いますか	3.3	4.0	なし	2.5	なし
7	授業の速さや進め方は、適切だったと思いますか	3.0	3.5	なし	2.5	なし

まず、全学生について、設問全体の平均値をみていく。全学年で見ると、平均値は前年度後期と比べて0.3ポイント上昇した(3.8)。全ての設問で平均値は上昇したが、設問別に見ると、設問2「あなたは予習・復習を含め、授業に意欲的に取り組んだと思いますか」、設問3「授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか」、設問4「授業内容はわかりやすかったと思いますか」、設問7「授業の速さや進め方は、適切だったと思いますか」は、いずれも0.4ポイントの上昇であった。今回、各学年の平均値をみると、1年生が3.8、2年生が3.7、3年生が3.6、4年生が4.3であった。4年生が群を抜いて高い数値となっているが、これは母数が少なく、サンプルに偏りがあるためであると思われる。前年度後期では、2年生の数値が低かったが、今年度は3年生が若干低いものの、顕著な差異は見られない。

次に、スポーツ学生について、設問全体の平均値をみていく。全学年で見ると、平均値は前年度後期と変わらない(3.5)。学年別の平均値をみると、1年生が3.7と相対的に高く、2年生と3年生が3.4と相対的に低い。4年生は4.4であった。

スポーツ学生と全体とを比較すると、全学年平均では、スポーツ学生は全体より0.3ポイント低い(3.5)。学年別にみると、4年生はスポーツ学生と全体の平均値が変わらないものの、1年生で0.1ポイント、2年生で0.3ポイント、3年生で0.2ポイント、それぞれスポーツ学生が全体より低くなっている。この数年スポーツ学生と全体の差は縮小傾向にあるとの分析が示されており、前年度後期の分析では、平均値が変わらないとの指摘がなされているが、今年度は、以前の傾向に復帰し、スポーツ学生の平均値が低い傾向が示された。

最後に、留学生についてである。全学年平均で見ると、留学生は全体より0.7ポイント低い。もっとも、母数が少なく、サンプルに偏りがあるものと考えられるため、ここから留学生の傾向を判断するのは困難である。

4 履修者数別結果

今年度は、前年度同様、授業ごとのデータはない。

5 授業のわかりやすさ) 及び新しいものの見方 (法学部関係科目及び法学部専任教員が担当する科目)

今年度は、前年度同様、授業ごとのデータはない。

6 授業・教室管理について

今年度は、前年度同様、授業ごとのデータはない。

7 複数教員による授業

今年度は、前年度同様、授業ごとのデータはない。

8 クロス集計

今年度は、前年度同様、授業ごとのデータはない。

9 専門共通基礎科目について

今年度は、前年度同様、授業ごとのデータはない。

2021 年度後期 人間生活科学部教育保育学科 授業評価アンケート報告書

教育保育学科 FD 委員会

1. 実施概要

教育保育学科在籍学生 217 名中 52 名がアンケートに回答した。本学科のアンケート回答率は 24.0%であり、大学全体の回答率と比較するとやや高い値であった（表 1）。また、回答者の学年の内訳は、1 年生 15 名、2 年生 12 名、3 年生 14 名、4 年生 11 名であり、学年による大きな偏りはなかった。スポーツ推薦学生は 4 名で回答者の 7.7%、留学生は本学科に在籍していないため回答者の 0%に該当した。

表 1

所属名	在籍者数【E】	回答者数【F】	回答率【F/E】
教育保育学科	217	52	0.24
【全体】	2388	473	0.20

昨年度と同様、今年度もオンラインでの授業評価を学生に求めたが、昨年度（56.3%）と比較して著しい回答率の低下が認められた。これは、学生の悪い意味でのオンラインでのやり取りへの慣れや、個々の科目の授業評価と全体の授業評価の周知の仕方の違いなどが関与している可能性が考えられる。

2. 教育保育学科の教員担当科目に関する評価の平均

教育保育学科の教員の担当科目に対する教育保育学科学生 52 名の授業評価の平均（7 つの設問項目に対する回答の平均）を表 2 に示した。比較検討のため、昨年度の平均値および本年度の大学全体の平均値を合わせて表記した。

表 2

	設問項目	前年度	本年度	大学全体
1	あなたは授業によく出席しましたか	3.4	3.5	3.5
2	あなたは予習・復習を含め授業に意欲的に取り組んだと思いますか。	3.3	3.4	3.6
3	授業はシラバスに沿って行われたと思いますか	3.4	3.7	3.8
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	3.6	3.8	3.8
5	授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	3.6	3.9	3.9
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか	3.8	4.1	3.9
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか	3.7	4.0	3.9

今年度の授業評価平均は、設問項目 6 および 7 が 4 ポイント台になっていた。本学科の授業形態の多くが、少人数の対面授業であるということが反映されている可能性がある。昨年度と比較してどの設問においてもわずかながら上昇しているが、総じて授業に関する評価は大きな変化はないといえる。

本年度の大学全体の授業評価平均と比較すると目だった差は認められなかったが、設問

2および3は大学全体の値よりわずかに低め、設問6および7はわずかに高めという結果であった。

シラバスについて

設問 E「あなたは授業のシラバスを読みましたか」という質問に対して、「はい」と答えた学生の比率データを表3に示した。本年度回答者の65.4%（34名）が、設問 Eに対して「はい」と回答していた。前年度と比較すると全体として「はい」の回答の比率は10%の値の上昇が認められた。シラバスを読んだからの受講が定着してきている様子が窺えるともいえるが、一方で今回のアンケート回答者は比較的受講意識が高い学生であったとも解釈できる。今年度の回答を学年ごとに見ると、1年生が最も「はい」の比率が高く80%に至っていたが、学年が上がるとともに、「はい」の比率は減少していた。1年生から3年生は前年度より「はい」の回答の比率が高かったが、4年生においては前年度より低い状態にあった。

表3

	前年度	本年度
全体	55.4	65.4
1年	73.0	80.0
2年	48.4	66.7
3年	45.0	64.3
4年	48.5	45.4

3. 学生の属性から見たデータ分析

学年、スポーツ推薦学生か否かの回答を基準に授業評価の平均を比較した。

(1) 学年別の結果

表4に学年ごとに見た各設問項目の評価平均を示した。

表4

設問	1年		2年		3年		4年	
	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度
1	3.3	3.8	3.3	2.9	3.3	3.9	3.7	3.4
2	3.3	3.6	3.1	3.6	3.3	3.6	3.4	2.9
3	3.6	4.0	3.1	3.7	3.4	3.5	3.6	3.5
4	3.6	4.0	3.2	3.6	3.8	3.7	3.9	3.9
5	3.7	4.3	3.3	3.8	3.6	3.9	3.9	3.5
6	3.9	4.3	3.5	3.8	3.8	4.1	4.1	4.0
7	3.7	4.5	3.3	3.4	3.7	4.0	4.0	3.9

はじめに本年度の回答に焦点化して分析すると、2年生の設問項目1および4年生の設問項目2において評価平均が2.9ポイントと最も低い状態であった。2年生における授業出席、4年における授業に対する意欲が課題として明らかになった。逆に1年生の設問項目5～7は評価平均が4.3ポイントと最も高かった。学年的な傾向としては1年生が総じて他の学年よりも各設問項目の評価平均が高かった。1年生の段階が授業に対する意欲や肯定的な態度が最も高く、この状態を低下させず維持するため取り組みを授業の中に入れていくことが課題といえる。

学年ごとに前年度と今年度の評価平均を比較すると、1年生から3年生に関しては極一部例外はあるものの、わずかなものも含め総じて前年度より今年度の各設問項目の評価平均が高いという結果であった。それに対し、4年生に関してはほとんどの設問項目において評価平均が前年度を下回る結果となった。

(2) スポーツ推薦学生に関して

スポーツ推薦学生及びそれ以外の学生の設問項目の評価平均を表5に示した。

表5

	設問項目	スポーツ推薦学生		それ以外の学生	
		前年度	本年度	前年度	本年度
1	あなたは授業によく出席しましたか	3.1	2.8	3.5	3.6
2	あなたは予習・復習を含め授業に意欲的に取り組んだと思いますか。	3.6	2.5	3.2	3.5
3	授業はシラバスに沿って行われたと思いますか	3.8	3.5	3.4	3.7
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	3.9	2.8	3.6	3.9
5	授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	4.0	3.3	3.6	3.9
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか	4.0	3.5	3.8	4.1
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか	3.9	3.8	3.6	4.1

本年度の回答に焦点化して、スポーツ推薦学生とそれ以外の学生の各設問項目における評価平均を比較すると、総じてスポーツ推薦学生の評価平均が低い結果となった。特に、設問2及び設問4は評価平均が1ポイント以上低かった。この2つの設問項目は、スポーツ推薦学生の前年度の評価平均と比較しても極端な値の低下を示しているといえる。スポーツ推薦以外の学生に関しては、前年度に比べて全ての設問項目に関して平均はわずかに高かった。今回のスポーツ推薦学生の回答者は4名に過ぎず、教育保育学科のスポーツ推薦学生全てを反映しているとは言い難い。しかし授業に対する意欲、および授業理解という部分でスポーツ推薦学生に対しては何かからのフォローが必要であることが示唆される結果であった。

2021 年度後期 人間生活科学部管理栄養学科 授業評価アンケート結果報告

管理栄養学科 FD 委員会

1. 実施概要

今回の授業評価アンケートでは、前年度と同様に Google Forms を活用し、授業に対する全般的な評価 7 項目について学生の回答を収集した。同じ方式で実施しているため回答率は前年と同等になると思われたが、管理栄養学科の前年度後期の回答率が 62.7% であったのに対し、本年度の回答率は 18.1% と非常に低い数値を示した (表 1)。対面式の授業内でアンケートが実施された 2019 年度後期の管理栄養学科の回答率が 90.7% であったことと比較しても、今回はかなりの低下が認められる。表 1 にデータは示していないが、管理栄養学科の回答者 45 名のうち、半数以上にあたる 23 名が 3 年生であった。学年で大きな差が見られた原因は定かではないが、周知の方法やタイミングなどにより学年差が見られた可能性も考えられるため、次年度以降の回答率を回復させるためにも検証が必要である。

表 1 管理栄養学科および大学全体のアンケート回答率

所属名	在籍者数 (E)	回答者 (F)	回答率 (F/E)
管理栄養学科	249	45	18.1%
全体	2,388	473	19.8%

2. 管理栄養学科の平均ポイントの前年度との比較

本年度の管理栄養学科全体の平均ポイントを前年度と比較すると、設問 1 以外の項目で数値が 0.2~0.4 ポイント上昇する結果となった (表 2)。回答率が低いため、バイアスがかかっている可能性も考えられる。設問 1 の「あなたは授業によく出席しましたか」に対する回答は、前年度より若干数値が低下した。本年度はコロナ禍であり、ワクチン接種や濃厚接触者に該当することで授業を欠席するケースもあったことが影響したと推測されるが、今後も出席率を高く保つことを考慮して授業を形成していく必要がある。設問 2 の「あなたは予習・復習を含め、授業に意欲的に取り組んだと思いますか」の項目は、前年度に比較して 0.2 ポイント以上の上昇が見られた。授業に意欲的に取り組むことは、管理栄養士国家試験合格につながると考えられるため、いっそうの改善を図っていききたい。設問 4 から設問 7 では、授業の内容に関連した質問がなされているが、すべて 4 ポイント以上の数値となっている。授業内容を理解でき、新たな発見を感じることで勉学への意欲や管理栄養士へのモチベーションを高めるきっかけになり得るため、教員自らが授業に対する熱意をより向上させて、学生を指導していく姿勢が求められる。

表2 管理栄養学科および大学全体のアンケート結果（ポイント平均値）

	設問項目	管理栄養		大学全体	
		前年度	本年度	前年度	本年度
1	あなたは授業によく出席しましたか	3.54	3.51	3.49	3.51
2	あなたは予習・復習を含め授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.46	3.67	3.42	3.58
3	授業はシラバスに沿って行われたと思いますか	3.46	3.64	3.59	3.79
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	3.78	4.02	3.53	3.78
5	授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか。	3.83	4.22	3.62	3.86
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか	3.89	4.24	3.67	3.93
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか	3.72	4.13	3.63	3.90

3. 学年別の平均ポイント

（1）管理栄養学科の学年別平均ポイントの前年度との比較

学年別平均ポイントを前年度と比較すると（表3）、設問1の出席に関しては、1年生と4年生で数値の低下が見られた。1年次で出席意欲が低いことは2年次以降の学習状況につながっていく可能性が高いため、来年度の授業に向けて改善策が必要である。4年生の出席の低下に関しては、管理栄養士国家試験対策の授業における出席免除制度が関連している可能性も考えられる。一方、設問2の授業への意欲については、全学年で数値の上昇がみられ、特に4年生では前年度より0.47ポイント上回った。設問5も前年度に比べ、全学年で0.34ポイント以上の増加がみられ、とりわけ2年生は0.76ポイントの増加を示した。設問4の授業のわかりやすさ、設問6の教員の熱意においても全学年で数値が増加した。

表3 管理栄養学科の学年別アンケート結果（ポイント平均値）

設問	1年		2年		3年		4年	
	前年度	本年度	前年度	本年度	前年度	本年度	前年度	本年度
1	3.31	3.14	3.53	4.43	3.43	3.48	3.85	3.13
2	3.31	3.43	3.66	3.86	3.39	3.57	3.53	4.00
3	3.51	4.14	3.41	3.86	3.50	3.52	3.43	3.38
4	3.55	3.71	4.00	4.14	3.61	4.04	3.98	4.13
5	3.80	4.14	3.81	4.57	3.75	4.13	3.91	4.25
6	3.71	4.00	3.94	4.43	3.96	4.26	4.02	4.25
7	3.45	3.86	3.72	4.00	3.71	4.26	4.00	4.13

(2) シラバスについて

「授業のシラバスを読みましたか」という質問に対し、「読んだ」と回答した学生の割合は、大学全体で 79.1%であったのに対し、管理栄養学科は 33.3%と半分以下の数値であった（表 4）。学年別にみると、3 年生が最も低く、17.4%にとどまった。

シラバス確認の有無により、アンケート結果に差がみられるかどうかを検討した（表 5）。その結果、シラバスを「読んだ」と回答した学生はシラバスを「読んでいない」学生に比べ、設問 1・2・3・5 において全学年で高値を示した。1 年生の設問 1、4 年生の設問 2、1 年生の設問 5 では、「読んだ」学生の方が 1 ポイント以上高い数値であった。意欲の高い学生であるが故、シラバスを読んだのかもしれないが、逆にシラバスを読んで授業の目的やこれから学ぶ内容を認識させることが学習へのモチベーションを高めるという効果も期待できるため、教員からシラバスを読むよう促すことを継続して行っていくことが大切であると考えられる。シラバスを読むかどうかについては、大学全体においても、3 年生・4 年生の数値が低下する傾向がみられるため、これらの年次の授業を担当する教員は、シラバスを読むよう学生にいつそう促すよう心がけたい。

表 4 「シラバスを読んだ」と回答した学生の割合

	管理栄養	大学全体
全学年	15/45 人 (33.3%)	374/473 人 (79.1%)
1 年	4/7 人 (57.1%)	114/137 人 (83.2%)
2 年	4/7 人 (57.1%)	117/135 人 (86.7%)
3 年	4/23 人 (17.4%)	85/116 人 (73.3%)
4 年	3/8 人 (37.5%)	58/85 人 (68.2%)

表 5 管理栄養学科におけるシラバス確認の有無別アンケート結果（ポイント平均値）

設問	1 年		2 年		3 年		4 年	
	読んだ	読んでいない	読んだ	読んでいない	読んだ	読んでいない	読んだ	読んでいない
1	3.75	2.33	4.75	4.00	4.25	3.32	3.67	2.80
2	3.50	3.33	4.00	3.67	3.75	3.53	4.67	3.60
3	4.75	3.33	4.50	3.00	4.25	3.37	3.67	3.20
4	4.25	3.00	4.00	4.33	4.00	4.05	4.00	4.20
5	4.75	3.33	4.75	4.33	4.25	4.11	4.67	4.00
6	4.25	3.67	4.50	4.33	4.25	4.26	4.00	4.40
7	4.25	3.33	4.25	3.67	4.25	4.26	3.67	4.40

4. スポーツ推薦の学生の平均ポイント

本年度の回答者の中でスポーツ推薦の学生は1割未満と少数であったが、スポーツ推薦でない学生との平均ポイントを比較した（表6）。前年度はすべての設問において、スポーツ推薦の学生の方がそうでない学生より高い数値を示したが、本年度は設問3以外は逆転する結果となった。スポーツ推薦の学生は、設問1の低下が顕著であり、スポーツ推薦以外の学生に比べると0.29ポイント低く、またスポーツ推薦の学生同士を前年度と比較しても1.12ポイントの減少が認められた。設問2の学習意欲についても、スポーツ推薦以外の学生が前年度に比べて0.31ポイント増加したのに対し、スポーツ推薦の学生は前年度より0.66ポイントの低下がみられた。部活動でコロナ感染者が発生して自宅待機となったり、あるいはコロナ対策で試合や練習の機会が減少したことで、授業の出席や勉学への意欲に影響が出た可能性もある。コロナが落ち着くまでは、スポーツ推薦の学生に対する継続的な観察やサポートが必要であると考えられる。設問5において、スポーツ推薦の学生は前年度に比べると数値が低下したものの本年度も4.00という数値を保っているため、新しいものの見方や考え方として得られたものを授業に取り組む意欲につなげていけるように教員が工夫していく姿勢も求められる。

表6 管理栄養学科におけるスポーツ推薦の有無別アンケート結果（ポイント平均値）

設問	スポーツ推薦の学生		スポーツ推薦以外の学生	
	前年度	本年度	前年度	本年度
在籍	12.0%	8.9%	88.0%	91.1%
1	4.37	3.25	3.42	3.54
2	4.16	3.50	3.37	3.68
3	3.63	4.00	3.44	3.61
4	4.11	3.50	3.73	4.07
5	4.26	4.00	3.77	4.24
6	4.21	4.00	3.85	4.27
7	3.95	4.00	3.68	4.15